

JR発足30年

あらゆる労働条件・労働環境を総点検しよう！

国鉄改革を経て誕生したJR東日本は、2017年4月1日に発足から30年を迎えました。これまで幾多の自然災害や経済危機を乗り越え、今や日本を代表する企業グループとして大きく成長を成し遂げてきました。その成長を通して、安全設備をはじめ鉄道施設は近代化やシステム化が進められ、鉄道それ自体が劇的に変化しています。

その一方で、私たちの労働条件や労働環境を見たときに、いまだ改善されていないものが数多くあります。社員が利用する施設や設備などが「30年前から時が止まったまま」になっているところはないでしょうか。また、各種手当や制度、福利厚生が社員にとって十全に整備されているでしょうか。

私たち東日本ユニオンは、JR発足から30年を迎えたことを機に労働組合の立場から「あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動」を取り組みます。具体的には「組合員一人一要求」を通じて、労働条件や職場環境を働く者の視点から問題を抽出し、問題の改善、整備にむけて全力をあげます。

取り組みを大上段から構えず、職場にある身近な問題でも構いません。「改善すべきだ」と感じたこと、感じていることを自らの要求にすることから、この取り組みはスタートします。

所属する労働組合の違いや年齢、性別などに縛られず、同じ働く者として職場から広く取り組み、5年先、10年先を見据えてJR労働者が真に働きやすい労働条件、労働環境をみんなで作っていきましょう！

住環境制度を改善したい！

事務職の手当が必要だわ

休憩室が狭い！



2017年4月
JR東日本労働組合 中央本部

JR発足30年 あらゆる労働条件・労働環境の 総点検行動!!

●国鉄改革を経て誕生したJR東日本が30周年を迎えました。30年を経過した現在、JR東日本グループとして大きく成長を遂げました。駅舎や新製車両は近代的デザインのものも多く、出札や改札はシステム化がされました。切符の購入はインターネットでの注文となりICカードが切符代わりです。切符を切るハサミを知らない国鉄改革を経験していない社員は過半数を超えたとともに労働現場も変化してきました。

●その一方で、私たちの労働条件や労働環境は、どうでしょうか。この間の私たちの取り組みによって、賃金水準の向上をはじめさまざまな改善をしてきました。しかし未だ改善されていないものがあります。また、各種手当や福利厚生などを改めて改善されたものもあります。さまざまな鉄道施設が近代化、システム化をされている中で社員が利用する施設や設備などは30年前から時間が止まったままであるところも多く存在しています。

●私たちは労働組合の立場からJR発足30周年を迎えたことを期に、あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動を取り組みます。会社は一流、社員の労働条件は三流であるのが現実です。JR労働者の団結をめざし、労働の枠を超え、現場の視点から改善に向けて取り組みます。みなさんから寄せられた要求については、その実現に向けて具体的に取り組んでいきます。

(要求の募集期間) 2017年4月22日～7月25日まで

地本名 職名 氏名 備考

(私の要求 (一人一要求))

(要求根拠、理由)

(裏面もお使い下さい)